

BICOID NOTE
JANUARY 2013

アトムのお持ち

覚えている限り、という但し書きが必要だけど、たぶん僕がはじめて観た恋愛映画は『グリーン・カード』だったと思う。先日フランスからの移住騒動で話題になったジェラルド・ドパルデューさんが、主演男優賞を受賞している。

ある日、中学校からの帰りに村上君の家に寄ったら（その頃は立ち寄らない日の方が少なかった）、彼の手元にそのVHSテープがあったのだ。もしかしたら藤原君も関係していたかもしれないけれど、細かいきさつは忘れてしまった。せつかくなので僕にもテープを回してもらおう事にして、その後はきつといつものようにWOWOWで『アトムの持ち』を観てやるせない持ちになって帰宅したのだと思う。

あらためてWikipediaのあらすじを読むとじつに単純なコメディなんだけど、中学生の僕自身もそれはそれで単純なコメディではあったので、結構胸を打たれたような気がする。……とか言いながら、この文章に引用するためにたまたま見返した『アトムの持ち』の徹底されたくだらなさにこそ、より強く胸を打たれたことは否定できないんだけど。

昨年の暮れ、社員旅行の帰国時に、機内でいくつか映画を観た。といつても選択肢は限られていて、観た順番に挙げるに『テルマエ・ロマエ』、『リンカーン 秘密の書』、『宇宙兄弟』、『ホノカアボーイ』。

『テルマエ・ロマエ』は前評判で聞いた通り、難しいことは忘れてにやけながら観られるコメディ映画だった。後半は市村正親さんの迫力以外、あんまり覚えてないけれど。

『リンカーン…』については、製作にティム・バートンの名前があったので選んだ。よくあるリンカーン大統領が吸血鬼と戦う映画。作品全体を通して、あまりに徹底された御都合主義とC級具合に、乗っている飛行機が墜落しそうになった。副題が「秘密の書」なんだからこの作品が完成した事もずっと秘密にしておけば良いのにとつ思った。開始から15分ほどで、お金のかかったアクションシーンに飽きてくると、もう何も観るべきところはない。せわしない社会生活の中で、

時間の大切さを忘れそうになった時、もう一度見返してみようと思う。

『宇宙兄弟』は、上記の作品に辟易してぐったりとしていたため、とにかく大統領の出て来ない作品をと選んだ。結果、期待していた以上に大統領が出て来なかったのも、まあまあ良かったと思う。終盤、皆が優しい声で自分を語り始める場面は、大統領云々関係なしに静かに心が温まる。

さて、なんのために珍しくこんな映画評を書いているのかと言うと、機内で最後に観た『ホノカアボーイ』について触れたかったからなのだ。正直なところ、なんの期待もせずに再生したその作品に、僕はずいぶん強く惹かれてしまった。きっと淡々として退屈に思えるその世界を、映画として受け付けられない人も一定数居るだろうなと予想されるけれど。

世間でどれくらい名の知られた映画なのかはわからない。同乗していた映画好きの後輩に、後から「あの映画、観た？」と尋ねてみたところ、「二回観たことがあるので機内では観ませんでした」と返事があった。こうした統計調査の結果、「映画好きが二度観た」という票が得られた。ともあれ、ようやくハワイを出国する段になって、ハワイのホノカアを舞台とした映画に心をつかまれるとは。

二週間あまりが過ぎて、もう一度その世界に触れたいと思った僕は、近所のレンタル店であらためて映画を借りて来た。

僕たちはなんのために人と出会い、なんのために別れるんだろう。なんのために人を裏切り、損ない、傷つけて、そのうえで自分こそが痛みを抱えているようなふりをするんだろう。何もかもを引き起こしているのは自分自身であることを、どうして認めないんだろう。

そんな事を思いながら、もう一度見返していたら、悩んでも仕方がないから早く寝ようと思った。明日から仕事だし。

十三年の月日が流れて

昨晚深夜三時過ぎのこと。

当初の目的も達成したし、これ以上続ける意味もないように思えたのでFacebookを退会しようと考え、アカウント管理のボタンを押そうとしたら、カーソルの真下にウドー音楽事務所による**ベン・フォールズ・ファイブ再結成の広告**が表示されていて、深夜に思わず声を上げそうになった。

大学生の頃、バイト先の伊藤君が貸してくれた『Whatever and Ever Amen』はその年に聞いた他のどんなアルバムよりも印象的な音楽だった。昨年、再結成してアルバムもリリースしていたらしいのだけど、これほどの出来事を今日まで知らずに過ごしたことが信じられない。

ページに表示された「十三年ぶりのアルバム」という言葉が視界に入り、思わず頬を緩めてしまう。僕はなにか不思議なものを感じてアカウントの削除を先延ばしにし、そのままページを閉じた。なにしろ僕が一昨年Facebookに入会した理由は、十三年前に別れた人と連絡を取るためだったのだ。

忘れ方の探し方

昨日は冬であることを忘れるかのように晴れ渡った空の下、土曜日であることを忘れるかのように労働してきた。予定よりやや早く、22時半にどうにか一段落ついたので、村上君の家でのいつものメンバーの集まりに寄り道して、日付をまたいで帰宅。終始、これからの日本のあり方について真剣に議論していたせいか、**写真**で振り返ると食事時の長官以外、いっさい誰も笑っていないことがわかる。

話し疲れて村上家の喫茶店を出ると、住宅街の空にはっとするくらいの星が輝いて見えて、男ばかりでしばらくじっと立ち止まってしまった。冬の大三角形は簡単に見つけられるけれど、その探し方をいつ学んだのかについてはすっかり忘

れてしまった。言うまでもなく、探し方を忘れるよりも、忘れ方を探す方が難しい。

Thank You Breaking My Heart

正午過ぎ、ようやく五十枚弱の年賀状を書き終えて印刷してみたたら、目詰まりがひどいのか何本もの縦線が入ってしまい、啞然としてしまった。プリンタの排紙トレイのところに枯山水で使う熊手でもセットされているのではないかと疑うほどの、幾筋もの線。

なにを試しても改善する気配がないので（丁寧に探したけれどやはり熊手もない）、あきらめてコーヒーを用意し、購入したばかりのアルバムからThank You Breaking My Heartの日本語版を聞いた。やたら日本語がうまくなっていて微笑ましい。Thank You Breaking My Heart。

VS. 細川ふみえ派

先日友人たちと話をしていたときの事。僕の中でいま一番ホットな話題作『**ホノカアボーイ**（2009年公開）』について、村上君が「あれは良い映画だねえ……」としみじみ二回言ってくれたのが微笑ましかった。

好きなアイドルの趣味は一切合わない彼（おそらく生粋の細川ふみえ派）と僕（剛力彩芽全肯定派）だけど、たまにこうした意外なところで意見の一致が見られるから、ほんとうに不思議だ。そういえば映画のタイトルをはじめて耳にした杉尾さんは、自分のiPhoneで上記の映像を検索したあと、「うわ誰これめっちゃかわいい水着の娘がいる！」と言った。ほんとうに不思議だ。

ちなみに僕が一瞬にしてこの映画に感情移入したのは、どれだけ走っても目当ての場所が見つからず、どん底まで機嫌が悪くなった助手席の彼女から、主人公が「……都合悪くなるとすぐ黙る」と叱られる場面です。その台詞だけ劇場版アバターかと思うくらい、画面のこちらに飛び出して胸に突き刺さった。わかる。黙る。黙るしかない。細川ふみえ派の彼にもこういう機微は伝わってんのかなあ。

同一視

「板東英二 頻繁だったブログ更新半月なし こちらもメド立たず？」という記事を読んで、これはまずいと思った。もしかしたら僕と板東英二さんが同一人物ではないかと疑念を抱く人が現れるかもしれない。これまで一度として否定した事がないわけだから、可能性としては捨てきれないだろう。

こんな具合に、忙しいとは言っても板東英二さんのニュースを取りこぼさずに追いかける程度には時間的な余裕がある。もしこの世界に取りこぼしても構わないものとそうでないものがあるとしたら、板東英二さんのそれは前者に当たるだろう。僕はここ数週間、どちらかと言えば後者について考えている。

周囲でいろいろな物事が動いていく。その動きが正確に観察できるという事は、僕自身が静止しているからだろうか。それとも僕が勝手に「よく観察できている」と誤解しているのだろうか。誰かの瞳から涙がこぼれ落ちる理由は、きっと悲しみや痛みではなく重力のせいだろう。

それは八分前の光

日常生活において、私たちが目にする太陽の光が今より八分も前に宇宙にうまれたものであることを意識する機会はなかなかないけれど、あなたが目にするこの文章の冒頭は、今からおおよそ七日前に書かれたものです。

昨年から掛け持ちしていた四つの仕事のうち、一番軽いものになんとか目処を付け、お客さんから強い要望がなければこれ以上動かなくても済む状態にした。これまであまり経験がなかったけれど、こうして切羽詰まったぎりぎりの環境に置かれてみると、限られた時間とエネルギーを効率よく使うことはとても難しい。焚き火が消える理由は風ではないのだ。

またまた文章とはほとんど関係のない写真集になってしまったけれど、**12月の日記**をまとめました。17MBほど。

COPYRIGHT (C) 2013 NOBUYUKI OKAHISA ALL RIGHTS RESERVED.